

相談・交流部門目次

- 1 相談・交流の基本的な考え方
- 2 相談業務
 - 1) 相談・交流部門の人員体制
 - 2) 相談の場所と時間帯
 - 3) 相談状況
 - ① 身分別相談状況
 - ② 内容別相談状況
 - i 研究・学習
 - ii 就職・アルバイト
 - iii 奨学金・授業料
 - iv 生活一般
 - v 入学・進学
 - vi 交流活動
 - vii ビザ・在留
 - viii 事件・事故
 - ix その他
 - 4) 相談業務における課題
 - 5) 就職支援
 - ① 支援の考え方
 - ② 就職実績
 - ③ 留学生センターラウンジにおける留学生向け個別会社説明会
 - ④ 就職支援室との連携
 - ⑤ 就職支援における課題
 - 6) 日本人学生の海外留学支援
 - ① 人員体制
 - ② 相談状況
 - ③ 情報提供
 - i 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布
 - ii 海外留学説明会の実施
 - ④ 海外留学状況
 - i 交換留学による海外留学者数
 - ii 協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣
 - ⑤ 日本人学生の海外留学支援における課題

- 3 学内交流活動
 - 1) 定期交流活動
 - ① 国際交流ラウンジ
 - ② ビデオショウ
 - 2) その他学内活動
 - 3) 福井大学留学生会
 - ① 設立背景と事務局構成
 - ② 福井大学留学生会の活動
 - 4) 学内交流活動の課題
- 4 地域社会との相互支援交流活動
 - 1) 小学校等への一日講師派遣
 - 2) 福井県等官界とのネットワークと交流活動
 - 3) 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動
 - 4) 地域国際交流ネットワーク構築及びネットワーク誌「こころねっと」
 - 5) 福井大学留学生同窓会活動
 - ① 福井大学留学生同窓会設立の背景
 - ② 福井大学留学生同窓会設立
 - ③ 支部設立の動き
 - ④ 同窓会の活動
 - ⑤ スプリングプログラム in 上海」
 - 6) 福井県留学生交流推進協議会
 - 7) 課題
- 5 外部への情報発信活動
 - 1) 主な発信媒体
 - 2) ネットワーク構築を支える情報登録・管理

相談・交流部門

1 相談・交流の基本的な考え方

留学生支援、特に相談業務の考え方についての基本的な視点は次の通りである。

- 1) 各種の学内活動及び地域交流活動を通して、留学生と留学生、留学生と日本人学生、留学生と地域市民、留学生と産業界、等々のネットワークを構築し、そのネットワークを通して、学生を支援する。
- 2) 問題が発生してから対応する問題解決型の相談から、問題発生を未然に予防する、更には、自己研鑽・社会活動展開のための相談へと、その重点の移行を目指す。
- 3) 精神的な落ち込み等のケアにおいても、多くの場合、その背後にある、より具体的な問題解決なしには対処できないことに留意する。
- 4) 発生した問題解決においては、学内外の諸機関・専門家と連携して解決する。
- 5) 可能な限り授業を多く担当し、留学生との日常的な接点を構築する。
(相談担当者が持つ授業に約100名の受講生がいるので、在学留学生約240名、ほぼ全員と顔が見える関係にあり、且つ、e-mail address等を把握している)

2 相談業務

1) 相談・交流部門の人員体制

福井大学留学生センターでは相談交流部門に中島教員1名が配置されている。他方、学生サービス課には課長以下職員が6名、事務補佐員が2名いる。学生サービス課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談・交流担当教員の方には、より複雑な問題について、腰を据えてゆっくり相談したい場合にやってくる。それぞれの相談に費やす時間は1回30分から1時間程度である。

2) 相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には5人用のソファースーツがあり、寛いだ雰囲気を提供できる環境にある。相談時間帯は留学生センターホームページ (<http://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/>) に掲載されている。また、研究室入口ドアには「いつでもどうぞお入りください。不在の場合のメモは上の籠はいにいれてください」との掲示があり、籠が用意されている。また、研究室のドアは常時開放されている。つまり、下記時間帯以外でも、授業中でない限り相談を受ける。

表1 相談の時間帯

曜日	午前	午後
月		14:00 ～ 17:00
水	9:00 ～ 12:00	
木	9:00 ～ 12:00	
金	9:00 ～ 12:00	

3) 相談状況

相談・交流担当教員の本学着任日（平成12年8月1日）以降の全相談データを記録し、身分別、内容別に分類してあるので、いつでも統計資料が作成できる状態になっている。

① 身分別相談状況

平成22年度における身分別相談状況は表2の通りである。

以下相談件数はすべて、相談・交流担当教員の研究室来訪による相談のみである。e-mailによる相談、学生サービス課における相談等は含まれていない。

表2 平成22年度身分別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	0	0	2	8	52	23	54	31	85	58.6%
学部学生	0	0	4	1	14	8	18	9	27	18.6%
研究生	0	0	1	6	1	5	2	11	13	9.0%
特別聴講生	0	0	0	11	6	3	6	14	20	13.8%
小計	0	0	7	26	73	39	80	65	145	
合計	0		33		112		145			
割合	0.0%		22.8%		77.2%					

・研究生には、特別研究学生を含む。 ・特別聴講学生には、科目等履修生を含む。

一方、平成22年10月1日現在の身分別在学留学生数は表3の通りである。

表3 平成22年10月1日現在の身分別在学留学生数 (人数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	4	1	3	9	65	32	72	42	114	46.2%
学部学生	0	0	2	2	51	17	53	19	72	29.1%
研究生	1	0	3	11	8	4	12	15	27	10.9%
特別聴講生	0	0	4	14	9	7	13	21	34	13.8%
小計	5	1	12	36	133	60	150	97	247	
合計	6		48		193		247			
割合	2.4%		19.4%		78.1%					

さて、表2及び表3からわかるように、在学留学生の身分別の割合が、概ねそのまま、身分別相談件数の分布割合と符合している。

ただ、一般に、大学院生の場合は、母国で学部教育を受けた後来日し、半年とか1年の研究生生活を経て、院生になる学生が多いため、日本滞在期間が短く、日本語力も低い。適応力がついていないことから、相談に来訪することが多い。更に、修了者の大半が日本国内就職を目指すこと、研究の壁にぶつかることが多いこと、それらも相談件数の増加要因となっている。

他方、学部生は日本語学校を経て日本語力を身につけ日本語による留学生試験を突破し、授業もすべて日本語で受講するなど、日本語力もある上に、日本滞在経験も長く問題解決力もあるので、相談件数は少ない傾向にある。

また、大学院生や研究生の場合は、研究室に所属しているので、指導教員や研究室仲間との緊密な人間関係が構築できるが、そのような環境にない特別聴講学生は周りに相談する相手が少なく、孤立することがある。

尚、医学部・医学研究科の場合、留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが地理的に離れていることから相談はほとんどない。全員が大学院生又は研究生で、研究室に所属し、指導教員や研究室の仲間の支援を受けていると思われる。尚、学内交流活動や地域交流活動には医学研究科の留学生も積極的に参加している。相談・交流担当教員から交流関係情報が常時メールで配信されているからである。

② 内容別相談状況

平成22年度における内容別相談状況は表4の通りである。

表4 平成22年度内容別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	0	0	0	2	15	8	15	10	25	17.2%
就職・アルバイト	0	0	5	13	18	9	23	22	45	31.0%
奨学金・授業料	0	0	0	0	7	2	7	2	9	6.2%
生活一般	0	0	1	2	5	10	6	12	18	12.4%
入学・進学	0	0	0	4	9	5	9	9	18	12.4%
交流活動	0	0	1	3	2	18	3	21	24	16.6%
ビザ・在留	0	0	0	2	1	1	1	3	4	2.8%
事件・事故	0	0	0	0	0	2	0	2	2	1.4%
小計	0	0	7	26	57	55	64	81	145	
合計	0		33		112		145			
割合	0.0%		22.8%		77.2%					

平成15年度～平成22年度における内容別相談状況は下記表5の通りである。

表5 平成15-22年度の相談内容別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	1	0	24	42	158	87	183	129	312	18.9%
就職・アルバイト	0	0	37	83	192	89	229	172	401	24.2%
奨学金・授業料	0	0	0	12	41	26	41	38	79	4.8%
生活一般	0	0	13	15	70	51	83	66	149	9.0%
入学・進学	0	2	14	49	140	96	154	147	301	18.2%
交流活動	0	0	21	45	142	57	163	102	265	16.0%
ビザ・在留	0	0	2	9	27	10	29	19	48	2.9%
事件・事故	0	0	1	6	59	33	60	39	99	6.0%

	医学部・医学系 研究科		教育地域科学部 ・教育学研究科		工学部・工学研 究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
小計	1	2	112	261	829	449	942	712	1654	
合計	3		373		1278		1654			
割合	0.2%		22.6%		77.3%					

表4及び表5から見ると、平成22年度の内容別相談件数は従来の内容別相談件数の割合とほぼ重なっている。

i 研究・学習

研究学習に関する相談は例年多いが、院生からの相談がほとんどである。研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。特に、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、今のテーマでは論文が書けない、などである。研究テーマや指導教員を変更したいということで、関係者と協議の上、結局研究室を変更するケースもある。

近年目立っているのが、博士の学位が取れずに、失意のまま帰国するケースが増えていることである。学ぶ側だけでなく、指導する教員の方に問題点があると思われるケースもある。本国政府の奨学金を受給している場合は、大使館等とも連絡調整しながら、本人の将来設計への影響を最小限にすべく対応している。本年度においても、指導教員と協議を重ねながらの側面支援も空しく、帰国した学生がいた。

ii 就職・アルバイト

本学留学生の近年の国内就職者数は、2007年度30名、2008年度20名、2009年度15名、2010年度21名となっている。健闘しているとは言え、就職環境は年々厳しくなっている。エントリーシートに登録しても、なかなか面接まで行けない。面接まで行っても落ちてしまう。連戦連敗の就職戦線に行き詰まり、自信を喪失する学生も多い。そのような学生に対して、心のサポートをすることが増えた。

一方、どんなに心のサポートをしても、就職が決まらないと問題は解決しないので、留学生センターラウンジにおける個別企業会社説明会を実施したり、希望分野の会社をインターネットで一緒に検索したり、商工会議所等で講演したりして、側面から支援している。

就職に関する相談が例年相談件数のトップであるが、商工会議所、福井労働局、福井入国管理事務所との連携、特に産業界とのネットワークを通して支援している。

iii 奨学金・授業料

奨学金・授業料の相談件数が少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、また、授業料免除は学生サービス課が窓口であるためと思われる。ここ数年目立ってきたのが、授業料が払えずに除籍処分になって大学を去る学生が増えていることである。アルバイトもしないでのんびり過ごして、納入期限の土壇場で相談に来るなど、資金計画、生活設計の習慣が身についていないことがその主な原因であった。成績も芳しくなく、授業料免除もなく、バイトもせず、という学生への対応に苦慮している。

iv 生活一般

生活一般に関する相談は少ないが、健康問題、アパート隣人とのトラブル、異国での生活による情緒不安、結婚直後に妻を残しての来日、子供を母国に残しての来日、また、逆に、日本語が出来ない妻を同伴したことによる問題、乳幼児を同伴しての単身留学来日等々、その問題発生要因は他方面にわたる。

住宅賃貸契約における保証人問題は外国人留学生支援会発足により機関保証制度が整ったため、皆無であった。

今年度はアパートの隣人からストーカー行為を受けた案件があったが、関係者の協力を得て解決した。

v 入学・進学

入学進学に関する相談は学内進学、学外進学、更には第三国への進学相談があり、特に最近では第三国への進学相談が増えている。相談内容は、指導教員の探し方、研究計画作成の指導、推薦状作成依頼がほとんどである。

vi 交流活動

学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるとの認識から、小中学校や県内機関に留学生を講師として積極的に派遣している。相談内容としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが相変わらず多いが、その他に、引き受けたいが、指導教員が厳しくて許可がもらえそうにないというもある。指導教員が交流活動と研究活動のバランスに苦慮している面が見られる。

vii ビザ・在留

相談件数が少ないのは、各種ビザの取得・更新手続き等に関しては学生サービス課留学生係が中心に処理して、その段階で解決されているからだと思われる。相談担当教員への相談案件は、家族や友人のビザ取得に関しての相談が中心である。

viii 事件・事故

事件事故に関する相談は全般に少ないが、その大半は交通事故案件である。被害者としてだけでなく、加害者の場合もあり、対応が難しい。いずれの場合も、学生サービス課職員、指導教員、保険会社、警察などと緊密な連携をとりながら対処している。

ix その他

海外から直接メールが入り、修士課程、博士課程への入学等に関する問い合わせや相談を受けることが多い。主に工学部・工学研究科に関するもので、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、当該専攻の留学生委員会委員に情報を転送し、専攻内全教員に受入意思を確認するように依頼している。毎年このような形で2、3名が本学研究科に入学している。

また、県内関係機関等から68件の来訪があり、交流活動、就職等について相談を受けた。

4) 相談業務における課題

- ① 学生を支援するためには、幾重もの人的ネットワーク作りを更に推進すること必要がある。
- ② 留学生センターの施設が分散し、且つ、日本語教育の教室から離れた場所に、相談担当教員の研究室があるため、留学生が相談に来ても不在なことがある。相談業務を含め、センター業務全体が有機的な機能を果たすためには、センター施設の集中化が望まれる。
- ③ 相談・交流部門は人員一人で多岐にわたる事業を担当し、且つ、授業も担当しているため、時間的及び精神的余裕に欠け、学生が相談に来にくい状況があるかと懸念している。

5) 就職支援

① 支援の考え方

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。留学生センターは双方のニーズを調整しながら、留学生支援および経済界特に県内企業の国際化支援を行っている。

表6 就職支援の流れ（平成22年度の例）

2月中旬

留学生向け就職説明会実施

内容 : 過去の就職実績・平成21年度（2009年度）の内定状況について
: これからの就職活動と相談について（就職の心構え、就職ナビ登録、

履歴書作成法、自己PR書の書き方、内定後の注意事項等)

: 各種資料配布

「就職活動の手引き2011年」福井大学作成

「日本で働こうとする外国人のみなさんへ」

(英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語版) 厚生労働省作成

「ふくい企業ガイドブック2011年」福井労働局作成

: 就職が内定している先輩の就職活動体験談

: 就職希望者リスト登録

5月

福井大学就職希望留学生一覧を県内企業130余社に送付

6月以降随時

求人票、会社説明会等をe-mailで配信。及び個別に就職相談を受ける。

随時

留学生センターラウンジにおいて、県内企業及び中部・近畿圏の個別企業採用説明会を実施。

内定決定

中島研究室に内定決定を連絡後、在留資格変更手続き等の相談を受ける。

② 就職実績

平成22年度の留学生の国内就職実績は下記表7の通り21名(県内7名)であった。

表7 平成22年度留学生国内就職実績(就職先内定情報入手順)

	企業名	所属	国籍	企業所在地
1	東芝(株)	工学研究科材料開発工学専攻	中国	東京都
2	(株)ユーフィット	工学研究科情報メディア工学専攻	中国	愛知県
3	積水化成(株)	工学研究科材料開発工学専攻	中国	大阪府
4	日産自動車(株)	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
5	第一織物(株)	工学研究科知能システム工学専攻	中国	坂井市
6	第一織物(株)	工学研究科建築建設工学専攻	中国	坂井市
7	第一ビニール(株)	教育地域科学部地域文化課程	中国	春江町
8	荏原製作所	工学研究科物質工学専攻物質化学	中国	神奈川県
9	日本インシュレーション(株)	工学研究科生物応用化学専攻	ベトナム	大阪府
10	日本インシュレーション(株)	工学研究科建築建設工学専攻	ベトナム	大阪府
11	独立行政法人 物質・材料研究機構	工学研究科物質工学専攻 分子工学	中国	茨城県
12	(株)友屋	教育学研究科教科教育専攻	中国	京都府
13	(株)シャルマン	工学研究科物質工学専攻 分子工学	中国	鯖江市

	企業名	所属	国籍	企業所在地
14	NECシステムテクノロジー(株)	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻	中国	東京都
15	(株)テクノシステム	工学部情報メディア工学科	中国	福井市
16	(株)ダブリュファイブスタッフサービス	教育学研究科教科教育専攻	中国	愛知県
17	富士車輛(株)	工学研究科機械工学専攻	中国	滋賀県
18	エフティアパレル(株)	教育学研究科研究生（交換留学）	中国	福井市
19	(株)ジ・コミュニケーション	教育地域科学部地域文化課程	中国	愛知県
20	三菱自動車工業(株)	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
21	(株)ノベルティアイウエア	教育学研究科教科教育専攻	中国	鯖江市

③ 留学生センターラウンジにおける留学生向け個別会社説明会

毎年就職希望者リストを県内130余社に送付して就職先開拓をしているが、県内外の企業から求人関係の問い合わせがあれば、可能な限り来訪いただき、本学留学生センターラウンジに留学生を集め、個別会社説明会をお願いしている。平成22年度は7社の説明会を実施した。

④ 就職支援室との連携

本学では就職支援室が全学の就職支援活動を展開しているが、留学生関係の求人情報、就職フェア情報などは随時就職支援室から情報提供を受けている。また、就職支援室からの要請で、日本国内外の就職先を問わず、全留学生の就職先の確認作業を毎年実施している。

⑤ 就職支援における課題

- i 就職支援の最大のポイントは求人会社の確保である。平成13年度、14年度、18年度と過去3回「県内企業と留学生の懇談会」を開催したが、平成19年度より、本学留学生センターラウンジでの個別会社採用説明会に力点を移している。その呼び込みを更に推進する必要がある。
- ii 本学就職支援室との連携をさらに推進する必要がある。
- iii 県内企業採用担当者のメーリングリストの拡充が必要である。
- iv 就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進することも課題である。
- v 各国同窓会支部網を通しての母国企業への就職支援も強化する必要がある。

6) 日本人学生の海外留学支援

① 人員体制

日本人学生の海外留学を支援する専任教職員は現在配置されていないが、日本語・日本事情教育部門の教員1名が担当し、平成15年10月以降その業務を行っている。

② 相談状況

平成22年度の相談件数は5件。工学部から3名、医学部から1名であった。いずれも英語圏への語学留学を希望。学生サービス課への相談は25件あった。

③ 情報提供

i 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布

国内外の各種団体から海外留学案内ポスターやパンフレット等が送付されてくるので、随時、留学生センターロビーの掲示板に貼ったり、書架に展示したりしている。また、部数に余裕があるときは、学生が自由に持ち帰れるようにしている。

ii 海外留学説明会等の実施

海外留学を希望する学生への説明会を毎年実施している。平成22年度の説明会は次のとおり。

第1回

説明会名	平成22年度海外留学説明会・Korean Summer Session 説明会
日時	平成22年4月13日（火）12:10～12:50
担当	海外留学支援担当教員、相談交流担当教員、学生サービス課職員
対象	本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	40名
内容	・留学生センター国際交流ラウンジの紹介 ・交換留学制度、各種海外研修の案内 ・先輩の体験紹介－長期留学のプランニング ・韓国東亜大学校サマーセッション（KSS）プログラム概要説明 ・東亜大学校の交換留学生による釜山、学校紹介 ・KSS参加学生による体験談

第2回

説明会名	冬の留学週間「出前相談会」
日時	平成22年12月6日（月）～9日（木）13:30～15:00

場 所	食堂内
担 当	学生サービス課職員、福井大学生生活協同組合、留学経験のある学生
対 象	本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	6名
説 明 項 目	・海外留学や海外経験の種類、形態の説明 ・海外留学を計画するにあたって ・交換留学、大学実施の留学プログラムの紹介・説明 ・大学生生活協同組合のプログラム紹介 ・留学経験者による経験

第3回

説 明 会 名	冬の留学週間「留学説明会」
日 時	平成22年12月10日（金）12:10～13:00
場 所	総合研究棟Ⅰ 総合小1 講義室
担 当	学生サービス課職員
対 象	本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	9名
内 容	・留学の種類、大学の留学に係る制度、留学までの流れ、留学までに準備することなどの説明 ・留学経験学生によるパネルディスカッション（留学のきっかけ、準備期間、滞在形態、印象に残っている出来事、留学経験をどう生かしているか、留学を考えている人へのアドバイス）

④ 海外留学状況

i 交換留学による海外留学者数

平成22年5月現在、本学には留学生が264名在籍しているが、その在籍者数はここ数年あまり変化はない。一方、日本人学生の交換留学による海外留学は毎年数名に過ぎないが、韓国への短期語学研修には募集枠を超える参加希望者がいる。本学の理念である、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、特に国際社会に貢献し得る人材の育成]のためには、日本人学生の海外留学の推進が引き続き重要である。

ii 協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣

短期語学研修は、本学各学部が主導するプロジェクトとして毎年実施されているが、センターにおいても、平成18年度より、本学が学術交流協定を締結している韓国の東亜

大学校の夏季短期研修プログラム「KOREAN SUMMER SESSION」に毎年学生を派遣すること
にしている。平成22年度は下記のとおり実施した。

研修先機関名：東亜大学校（韓国）

派遣学生：5名（教育学研究科2名、教育地域科学部2名、工学部1名）

期間：平成22年8月9日～8月20日（約2週間）

目的：韓国語初級コースと韓国の政治・経済、社会、文化などに関する特別
講義等により構成された、日本人学生向けのプログラムで、韓国社会
についての全般的な理解を深める機会を提供することを目的とする。

備考：プログラム参加費、宿泊費等は無料。

⑤ 日本人学生の海外留学支援における課題

平成23年4月に語学センターが開設されるが、現在、留学生センターの所管になってい
る日本人学生の海外留学支援業務の位置づけの問題も当然、語学センターとの関連で調整
する必要があるだろう。

3 学内交流活動

留学生相互の交流、日本人学生との交流のために、学内交流活動を推進している。その目的は人間関係のネットワークを通して、①留学生の精神的な安定を図ること②相互扶助の関係を構築すること③留学生および日本人学生の国際性の涵養を図ることなどである。

尚、学内交流活動は福井大学留学生会が中心となり、大学生協学生組織 SOSEN 部などと協力しながら実施している。

表 8 平成22年度学内交流活動実績

	月 日	活 動 報 告	人数
1	4月4日	第94回スポーツ大会（第55回バレーボール 第31回バトミントン大会）	15
2	4月11日	第95回スポーツ大会（第45回サッカー 第55回バレーボール）	19
3	4月13日	福井大学留学生会事務局会議	5
4	4月15日	International Friendship Party	30
5	4月16日	オリエンテーション及び茶話会	100
6	4月20日	福井大学留学生会事務局会議	16
7	4月22日	新入生歓迎会	35
8	4月23日	第一織物㈱会社説明会	5
9	4月23日	アイテック㈱会社説明会	4
10	5月3日	第96回スポーツ大会（第46回サッカー 第13回バスケットボール 第32回バトミントン大会）	19
11	5月6日	第98回国際交流ラウンジ	5
12	5月13日	第97回ビデオショウ「ジュノ」	13
13	5月16日	第97回スポーツ大会（第47回サッカー 第56回バレーボール 第33回バトミントン大会）	21
14	5月20日	第99回国際交流ラウンジ「大学祭」	13
15	5月21日	日本インシュレーション㈱会社説明会	6
16	5月23日	第98回スポーツ大会（第57回バレーボール 第14回バスケットボール）	23
17	5月25日	第9回国際交流キャンプ実行委員会	7
18	5月27日	第98回ビデオショウ「七人の侍」	5
19	5月28日～30日	大学祭（3グループ、中国、マレーシア、ベトナム）	80
20	6月3日	第100回記念国際交流ラウンジ	26

福井大学留学生センター紀要第7号

	月 日	活 動 報 告	人数
21	6月4日	シャルマン(株)会社説明会	7
22	6月6日	第99回スポーツ大会 (第48回サッカー)	27
23	6月10日	第99回ビデオショウ「WALL・E」	7
24	6月11日	信越化学(株)会社説明会	5
25	6月17日	第101回記念国際交流ラウンジ「6月のイベント」	13
26	6月20日	第100回スポーツ大会 (第49回サッカー 第58回バレーボール 第32回バトミントン大会)	25
27	6月24日	第100回ビデオショウ「Paranoid Park」	0
28	6月25日	小林化工採用面接会	2
29	6月27日	第101回スポーツ大会 (第59回バレーボール 第15回バスケットボール)	19
30	7月1日	第102回国際交流ラウンジ「七夕」	9
31	7月2日	第9回国際交流キャンプ実行委員会2回目	7
32	7月4日	第102回スポーツ大会 (第50回サッカー 第16回バスケットボール 第60回バレーボール 第33回バトミントン)	31
33	7月5日	第9回国際交流キャンプ説明会	35
34	7月11日	第103回スポーツ大会 (第17回バスケットボール 第61回バレーボール)	27
35	7月12日	第104回スポーツ大会 (第51回サッカー 第62回バレーボール 第34回バトミントン大会)	24
36	7月13日	進学説明会	15
37	7月15日	第103回国際交流ラウンジ「夏休み」	9
38	7月16日	留学生応援かき氷大会	30
39	7月16日	留学生就職支援プログラム説明会	13
40	7月22日	大学院進学説明会	15
41	7月22日	第101回ビデオショウ「ローマの休日」	5
42	7月25日	第105回スポーツ大会 (第18回バスケットボール 第63回バレーボール)	21
43	7月26日	福井大学留学生会事務局会議(登山、ボーリング、さよならパーティ)	8
44	7月29日	留学生就職支援プログラム面接	15
45	8月1日	第106回スポーツ大会 (第52回サッカー 第19回バスケットボール 第64回バレーボール 第35回バトミントン)	32
46	8月4～5日	第9回国際交流キャンプ	39
47	8月8日	第107回スポーツ大会 (第20回バスケットボール 第65回バレーボール)	17

相談・交流部門

	月 日	活 動 報 告	人数
48	8月18日	前期さようならパーティ	25
49	10月 7 日	第104回国際交流ラウンジ「夏の思い出」	35
50	10月14日	第102回ビデオショウ「リトル・ミス・サンシャイン」	11
51	10月15日	2010年後期オリエンテーション及び懇親会	100
52	10月17日	第108回スポーツ大会（第66回バレーボール 第36回バトミントン）	25
53	10月20日	2010年後期歓迎会	33
54	10月21日	第105回国際交流ラウンジ「～の秋」	12
55	10月24日	第109回スポーツ大会（第67回バレーボール 第37回バトミントン）	28
56	10月27日	福井大学留学生会事務局会議	14
57	10月28日	第103回ビデオショウ「海の上のピアニスト」	11
58	10月31日	第110回スポーツ大会（第53回サッカー 第21回バスケットボール 第38回バトミントン）	26
59	11月 4 日	第106回国際交流ラウンジ 「お話し会とオータムパーティー」	15
60	11月 7 日	第111回スポーツ大会（第54回サッカー 第68回バレーボール 第22回バスケットボール 第39回バトミントン）	18
61	11月11日	第104回ビデオショウ「『天使にラブ・ソングを』(Sister Act)」	8
62	11月14日	第112回スポーツ大会（第23回バスケットボール 第69回バレーボール）	29
63	11月18日	第107回国際交流ラウンジ「終わる秋、始まる冬」	12
64	11月21日	第113回スポーツ大会（第55回サッカー 第70回バレーボール 第40回バトミントン）	24
65	11月24日	福井大学留学生会「こころねっと」編集及びスキー旅行会議	22
66	11月25日	第105回ビデオショウ「ジュリー&ジュリア」	10
67	11月28日	第114回スポーツ大会（第24回バスケットボール 第71回バレーボール）	25
68	12月 2 日	第108回国際交流ラウンジ「日本の冬」	19
69	12月 9 日	第106回ビデオショウ「カンナさん大成功です！」(200 Pounds Beauty)	9
70	12月10日	忘年会実行委員会	6
71	12月12日	第 1 回U F I S Aボーリング大会	26
72	12月16日	第109回国際交流ラウンジ「年末」	10
73	12月22日	福井大学留学生会忘年会	59
74	1 月 6 日	第110回国際交流ラウンジ「年始」	8

	月 日	活 動 報 告	人数
75	1月13日	第107回ビデオショウ「Inception」	10
76	1月17日	1月22日スキー旅行説明会	21
77	1月20日	第111回国際交流ラウンジ「World Culture Presentation」	19
78	1月22日	第6回福井大学留学生会スキー旅行	40
79	1月23日	第115回スポーツ大会（第25回バスケットボール 第72バレーボール）	24
80	1月27日	第108回ビデオショウ「Valentine's Day」	7
81	1月30日	第116回スポーツ大会（第26回バスケットボール 第73バレーボール）	31
82	2月6日	第117回スポーツ大会（第56回サッカー 第27回バスケットボール 第41回バトミントン）	27
83	2月15～16日	第7回福井大学留学生会スキー旅行	30
84	3月2日	後期さようならパーティ	23

1) 定期交流活動

毎週第一、第三、及び第五木曜日には国際交流ラウンジを、また、第二、第四木曜日にはビデオショウを実施している。

① 国際交流ラウンジ

案内文（和文例：実際には和英併記でメール配信する）

留学生及び日本人学生の皆さん

下記の通りお話し会「第110回国際交流ラウンジ」を行います。

ぜひ お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 12月16日（木曜日）18：15-19：15

（毎月第一、第三及び第五木曜日18：15-19：15開催）

場所 留学生センター ラウンジ

参加者 留学生及び日本人学生

内容 前半30分英語、後半30分は日本語によるグループ自由会話
（飲み物、お菓子付）

話題 『年末』

参加費 無料

主催 福井大学留学生会

福井大学生協 SOSEN部

② ビデオショウ

案内文（和文例：実際には和英併記でメール配信する）

留学生、及び日本人学生の皆さん、

下記のとおり、第108回ビデオショウをします。

お誘い合わせのうえ、おいでください。

日時	2011年1月27日（木曜日）	18:15-20:30
題名	「Valentine's Day」（本編英語、日本語字幕付き）	
場所	留学生センターラウンジ	
料金	無料（コーヒー、お菓子付き）	

** いい映画の推薦をぜひお願いします。

（内外、どこの国の映画でも）

Abdul Rahman、

Secreratry、

University of Fukui International Student Association (UFISA)

2) その他学内活動

その他の主な活動としては、福井大学留学生会主催による、国際交流サマーキャンプ（1泊2日、越前海岸での水泳、国見岳でのキャンプ。毎年40名程参加）、及び2回の国際交流スキー旅行（1泊2日30名、日帰り40名）がある。両行事とも参加費3,500円であるが、申込み開始初日数分で定員オーバーとなる人気行事である。その他に、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ボーリングなどのスポーツ大会、歓送迎会、忘年会などを実施している。特に平成20年度から福井大学留学生事務局の種目別スポーツ委員会が編成され、毎週日曜日午後15:00-19:00に本学体育館を予約して、スポーツ種目の月間予定表に従って実施しているが、毎回30名前後が参加している。

3) 福井大学留学生会

① 設立背景と事務局構成

平成15年11月に福井大学留学生同窓会が発足したが、それを機に、その同窓会事務局の提案により、福井大学留学生会が平成16年4月に発足した。その目的は、留学生相互の交流と相互扶助、日本人学生および地域社会との交流である。福井大学留学生会の会長は福井大学中国人留学生学友会長が務めることになっているが、毎学期開始時に、各種行事毎の実行委員会が編成され、実行委員会を中心に行事を企画運営している。

② 福井大学留学生会の活動

福井大学生協学生組織 SOSEN 部などと協力しながら、「国際交流ラウンジ」、「ビデオショウ」、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー旅行、各種スポーツ大会などを実施している。また、地域社会との交流活動としては、県内国際交流団体が主催する行事に積極的に参加している。また、地震・津波など災害救援のための募金活動なども行っている。

4) 学内交流活動の課題

- ① 相談交流担当教員は日本人学生との授業等を通じた接点がないので、e-mail 網等の構築が難しい。現在は、各種活動に参加する日本人学生から個別に情報を収集しネットワークを構築している。
- ② 留学生の大半は私費留学生であり、生計維持のためにアルバイトをしなければならず、実験やレポートなど課題が多く、時間が取れないため、参加したくても参加できない学生が多い。
- ③ 他方、留学生個人が様々な活動に参加できないと、相談交流担当者との接触が薄くなり、徐々に顔が見えなくなる。そして、ある日突然大きな問題を抱えて相談に来ることになる。
- ④ 従って、各種交流活動に参加しなくても、常に、目の届くような体制構築が課題である。学内外の交流活動に参加するあまり研究が疎かにならないかと懸念する指導教員もいるのでそれも考慮する必要がある。

4 地域社会との相互支援交流活動

1) 小学校等への一日講師派遣

地域社会は温かく留学生を迎え、受入れ、支援してくれている。留学生も地域の国際化のために、何かをし、喜んでもらう。その満足感、達成感、充実感こそが自己の存在意義、社会貢献の証しとして懐かしい思い出となる。ギブ&テイクのベクトルは常に双方向の満足感を伴うが、ギブによる思い出こそが知日派、親日派を育てると認識している。その認識から、小中学校の総合学習、企業への通訳・語学講師派遣など、地域社会の国際化支援活動を展開している。

留学生センターとしての留学生派遣状況は平成14年度(25件)から全て記録してあるが、平成22年度の派遣実績は50件となっている。

尚、これらの件数はあくまでも、相談・交流担当教員が直接介在して派遣したもので、地域社会と関係が重層的に構築される中で、留学生センターを通さず、留学生が直接、地域各交流協会の語学講座講師や文化教室講師、また公民館や幼稚園の活動等に参加している例も多い。

派遣の流れと、派遣実績は表9及び表10の通りである。

表9 留学生派遣の流れ

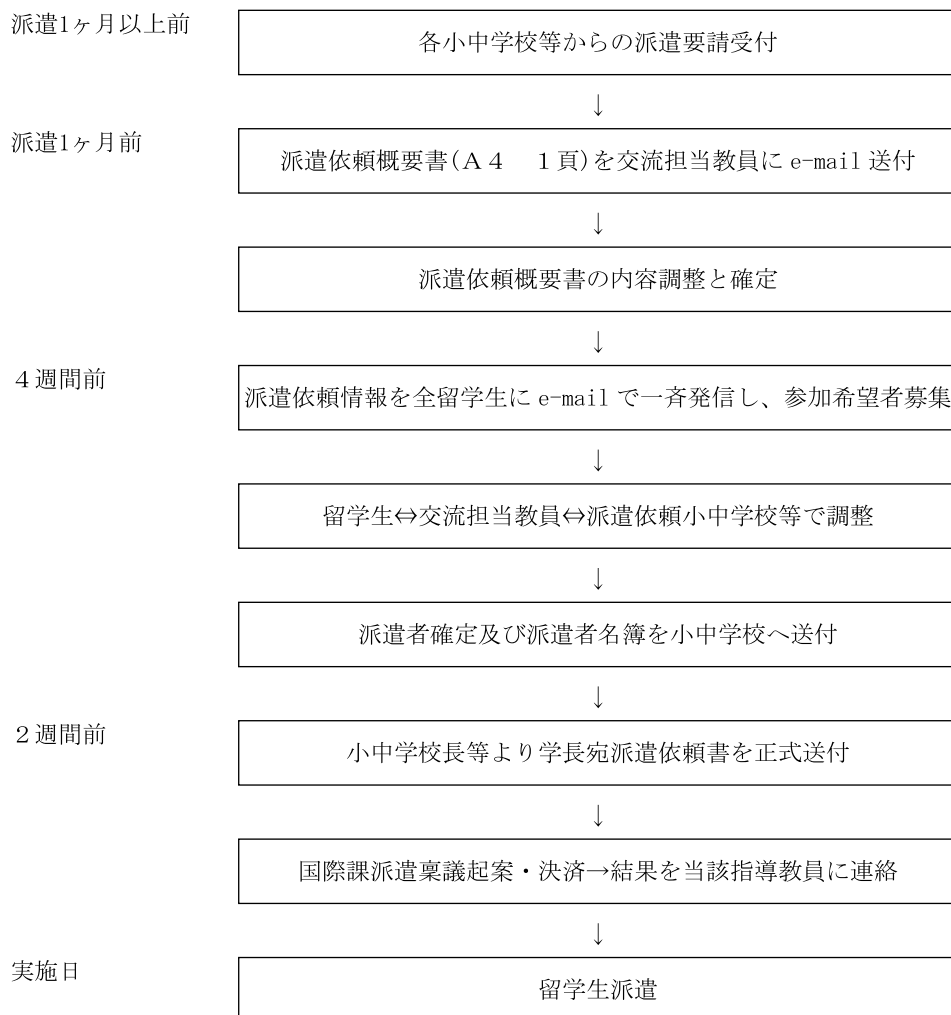


表10 平成22年度の留学生派遣実績

	月 日	派 遣 項 目	人数
1	5月30日	福井県国際交流協会「APECまつり」料理紹介	2
2	6月6日	FBCラジオ「にっちょにAOSSA」出演	3
3	6月14日	NHK APEC関連インタビュー「ニュースザウルスふくい」	6
4	6月16日	県民福井APEC「あせあん横丁」関連インタビュー	5
5	6月19日	日本アセアンセンター「APEC1010エネルギー大臣会合」応援イベント「あせあん横丁」	5
6	6月26日	宝永小学校 異文化紹介・料理	3
7	6月27日	ふくい市民国際交流協会「福井発見ツアー」	6
8	6月30日	附属小学校「学校朝会」韓国古典楽器Jango 演奏	3
9	7月4日	福井県国際交流協会嶺南センター「おしゃべりサロン」	1
10	7月10日	啓蒙小学校国際交流集会「Keimo International Day」	18
11	7月10日	福井県国際交流協会「ホームビジット」	13
12	7月11日	啓蒙小学校「4年生の英語活動」	5
13	7月16日	S O S E N部留学生応援かき氷大会手伝い	1
14	8月6日	福井市国際交流協会、朝宮公民館 バングラデシュ文化紹介	1
15	8月23日	福井県国際交流協会「浴衣で養浩館庭園を歩こう！」	6
16	8月25日～27日	福井県教育委員会「English Summer Camp」福井ブロック	2
17	8月25日～27日	福井県教育委員会「English Summer Camp」丹南ブロック	2
18	9月6日	「原子力」夏の大学 英語討論会	3
19	10月3日	福井県「外国人のための防災訓練」	3
20	10月10日	丸岡古城まつり	16
21	10月12日	清水西小学校5年生41名「世界のいろいろな国の年末年始の過ごし方」ハローワールド	1
22	10月17日	福井AALA交流食事会	5
23	10月30日	インターナショナルさかい 中国語通訳ガイドボランティア研修（語学指導）	4
24	11月3日	福井市環境パートナーシップ会議「福井・環境ミーティング」の「外国人との環境ワークショップ」	1
25	11月6日	日本赤十字福井支部青少年赤十字『高校生国際交流の集い』	5
26	11月6日	インターナショナルさかい「通訳ガイドボランティア研修一日観光」	10
27	11月8日	福井青年館 JICA青年研修事業（ベトナム20名、2週間）事前勉強会講師	1

	月 日	派 遣 項 目	人数
28	11月10日	福井市湊小学校国際交流集会	5
29	11月12日	福井県国際交流協会福井市国見小学校ハローワールド	1
30	11月13日	インターナショナルさかい「通訳ガイドボランティア研修一日観光」(意見交換)	4
31	11月14日	越前町国際交流フェスティバル	30
32	11月23日	永平寺町吉野公民館「おらが村でも国際交流」	4
33	11月26日	越前市岡本小学校ローワール (ペルー アンデスの音楽)	1
34	11月26日	附属小学校6年「あなたの夢を語ってください」	9
35	12月3日	明新小学校 総合的な学習	4
36	12月6日	鯖江市吉川小学校ハローワールド (バングラデシュ)	1
37	12月10日	附属小学校6年「夢発表会」	7
38	12月12日	インターナショナルさかい「第8回チャリティ世界文化紹介講座」ポルトガル共和国の文化紹介	1
39	12月24日	西部保育園 クリスマス活動 (サンタさん派遣)	1
40	1月6日	ふくい市民国際交流協会、河合地区デイホーム「お正月紹介」 70才25名 子ども4～5名	1
41	1月～3月	韓国語教育(福井県A A L A)	1
42	1月～3月	ベトナム語教育 (JICA派遣母子手帳普及専門家)	1
43	1月22日	ふくい市民国際交流協会「福井発見ツア、節分を楽しもう」	10
44	1月29日	福井国際交流協会「ペルー料理展・インカ道写真展」	1
45	1月30日	生活情報誌「ふう」取材 (日本語と母国語の違い)	2
46	1月30日	子どもいきいきプロジェクト 「チェオボンに会おう!～人形劇からラオスに出会う～子どもたちの笑顔の国際交流事業」事前ワークショップ	2
47	2月13日	インターナショナルさかい インドネシアと日本の家庭料理教室および懇親会	1
48	2月14日	福井県立武生高校 Exchange Event at Takefu High School	18
49	2月26日	福井県国際交流協会「和楽器を体験しよう」	6
50	3月13日	インターナショナルさかい ベトナム文化紹介講座	1

2) 福井県等官界とのネットワークと交流活動

福井県、特に産業労働部国際・マーケット戦略課、福井県国際交流協会、同嶺南センター、各市町村の国際交流協会との交流活動を随時実施している。

① 福井県との連携活動

- i 「スプリングプログラム in 上海」を共同事業として実施

本プログラムは本学日本人学生の国際性涵養をはかるため、大学院入学前導入教育として、平成20年度に開始し、本年度も第3回「スプリングプログラム in 上海」を実施した。2週目は中島清相談・交流担当教員が企画・運営を担当し、全期間上海に出張し調整に当たった。本講座の履修科目は「工学研究科共通科目」として単位認定される。今後も毎年継続実施する予定である。

(平成22年度の例)

講座開設期間	平成23年3月6日(日)から20日(日)まで2週間
講座開設場所	上海理工大学(中国、上海市)、宿泊先も同大学ゲストハウス
参加者	14名 工学部4年9名(機械工学6、応用生物化学2、電気電子工学1) 工学研究科博士前期課程2年2名(生物応用化学1、ファブ・アパティ1) 工学研究科博士前期課程入学予定前交換留学生3名(機械工学3)
内容	1週目 「中国語・中国文化」「工学関係の講義」 2週目 「海外企業経営・技術論」及び「海外インターンシップ」
講師	1週目 上海理工大学講師 2週目 福井県上海事務所経済顧問、現地進出福井県企業経営者及び福井大学留学生同窓会上海支部会員(会社経営者)
共同事業者	福井大学、上海理工大学、福井県、福井大学留学生同窓会上海支部、
県側連携部署	福井県観光営業部国際・マーケット戦略課、及び福井県上海事務所

② 福井県国際交流協会及び JICA 北陸支部との連携

i 平成22年度国際理解教育出張講座「ハローワールド」事業への協力

福井大学留学生センターは福井県国際交流協会及び JICA 北陸支部が実施する「ハローワールド」事業が発足した平成15年より事業協力機関として、同事業実施対象小学校に留学生を講師として派遣している。平成22年度は「ハローワールド」実施対象8校(小学校7校、中学校1校)の内、小学校4校に留学生を派遣した。尚、本事業開始時より中島清相談・交流担当教員が選考委員として協力している。

3) 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。

他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。日本社会が抱える少子化、そして、世界的な人的移動と人材確保競争の中で、留学生センターとしては、地域国際化支援の核として、地域産業界への人材供給と留学生の就職支援を目的に、平成13年、14年、18年に「県内企業と留学生の交流

会」を実施した。その結果、留学生の国内就職者は、平成13年度8名（県内4名）以降、14年度6名（同2名）、15年度16名（同9名）、16年度23名（同9名）、17年度9名（同4名）、18年度は26名（同7名）、そして、19年度は30名（同11名）と着実に増加していたが、それ以降は、20年度は19名（県内8名）、平成21年度15名と減少している。平成22年度は21名（県内7名）とやや持ち直したが、昨今の経済情勢から就職環境は厳しくなりつつあり、今後も商工会議所、JETRO等と連携しながら、留学生の国内就職を推進していきたい。

4) 地域国際交流ネットワーク構築及びネットワーク誌「こころねっと」

卒業留学生、在学留学生、教職員、日本人学生、地域産官学民各界とのネットワーク構築のために留学生センターネットワーク誌「こころねっと」を平成13年秋号以降毎年発刊している。平成22年度も第10号2,500部を発行した。「こころねっと」の概要は下記の通り。

表11 「こころねっと」概要

発行部数	2500 部
体裁	A 5 版、46 ページ、カラー印刷
配布先	卒業留学生、在学留学生、本学教職員学生、地域国際交流機関・個人、県下全小中高校、各大学留学生センター、他
編集	在学留学生中心の編集委員会（約 10 名）
内容	在学・卒業留学生投稿記事 2 / 3、センター行事等 1 / 3 が目安。 行事感想、生活・旅行・映画・読書等体験、各国文化・社会紹介 各国挨拶紹介、各国料理紹介、帰国留学生からのメッセージ

5) 福井大学留学生同窓会活動

① 福井大学留学生同窓会設立の背景

昭和45年に福井大学第1号留学生 Lim Kim Teck 氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、約1,400名の留学生が福井大学で学び、約800名が帰国し、約150名が卒業後日本国内に就職して勤務中である。平成13年秋のネットワーク誌「こころねっと」創刊に当たり、帰国留学生全員の住所ラベルを作成し、冊子を送付した。その中に、「福井大学留学生同窓会登録用紙」を同封したところ、多数の返信があった。そこが設立の出発点である。

② 福井大学留学生同窓会設立

文部科学省より特別配分予算を受け、平成15年11月30日に「第1回福井大学留学生同窓会大会」を開催。招聘した帰国留学生13名及び在学留学生計91名が参加し、同窓会設立宣言文を採択した。そして、劉丁会長以下事務局を選任した。

③ 支部設立の動き

平成16年12月マレーシアのクアラルンプールで「福井大学留学同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、支部設立宣言文の採択と事務局選出が行なわれた。その後、タイ、インドネシア、韓国、西安、上海、杭州、台湾、北京、ハンブルク支部が設立され、平成20年11月には日本国内支部、そして、平成21年12月にはバングラデシュ支部設立された。現在12支部が活動を展開している。

④ 同窓会の活動

同窓会の活動としては、① 支部会員相互の情報交換、交流や連携活動 ② 他国支部との情報交換、交流や連携活動 ③ 福井大学を含む福井県産官学民との交流 ④ 各国と日本の経済・文化交流などがある。

⑤ 「スプリングプログラム in 上海」

4-2)-iiで記載したとおり、22年度も第3回「スプリングプログラム in 上海」を実施した。今後も継続実施の予定である。このプログラムは上海理工大学、留学生同窓会上海支部、福井県（特にその上海事務所）、及び現地進出福井県企業、4者の共同事業であり同会活動のモデル事業と位置付けている。受講科目は工学研究科博士前期課程入学後、履修科目として単位認定される。また、本プログラムの最終日には関係者への感謝を込めて、上海理工大学の食堂で交流会を実施しているが、福井大学留学生同窓会上海支部会員も毎年15名ぐらいが合流している。

6) 福井県留学生交流推進協議会

県内産官学民の計30団体機関が会員となり、「福井県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進する」ことを目的として活動しているが、留学生センターからは、センター長及び相談交流担当教員がその運営委員会委員として参画している。また、福井大学国際課がその事務局となっている。

その主な活動としては、「留学生救済援助金」による国民健康保険料助成、情報交換などである。また、毎年、「福井県留学生だより」を学生サービス課が編集し、発行している。センターの諸活動についてもそこに掲載し地域に発信している。

7) 課題

① 地域社会相互支援活動と教育・研究活動のバランス

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。その意味で、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することにしている。

又、留学生は遠方の派遣先に自転車に向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先

に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。

実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

② 同窓会各国支部網の活用

同窓会各国支部網、ネットワーク誌「こころねっと」を通したネットワーク、帰国及び在日卒業生の住所や e-mail アドレス網は本学、及び地域社会の国際化戦略における重要なインフラと考えている。小規模大学が海外事務所を持つことは難しいが、同意総会支部には本学の海外支部としての役割を期待し、それを既にお願している。

③ 今後の活動方向

- ・ 同窓会及び在学生在が連携して、地域社会の国際化に貢献できるような活動の模索が必要である。

上海支部及び西安支部が編成し来訪したミッション型交流もそのプロトタイプであると言えるが、ミッション型交流をいかに継続実施できるかも課題である。

- ・ 本学教員が各国支部と協力して、現地で産官学民の参加者を集めて、シンポジウムや講演会を実施し、その中から国際共同研究のシーズを発掘し、更にそれに県内企業を巻き込む活動も望まれる。
- ・ 同窓会支部網の活性化と、活動内容に関する情報交換のために、福井大学同窓会世界大会の開催も望まれるが、その予算確保も課題である。

5 外部への情報発信活動

1) 主な発信媒体

留学生センターの情報発信媒体としては、「留学生センターホームページ <http://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/>」がその中心的な役割を果たしている。その他の発信媒体としては、「福井大学留学生センター紀要」「センターニュース」、ネットワーク誌「こころねっと」、などがある。

2) ネットワーク構築を支える情報登録・管理

学内及び地域、そして国際的なネットワークを構築して活動を展開しているが、その基盤となるのが、住所及びメールアドレスの登録と管理である。

登録状況は下記のとおりである。

ネットワーク誌「こころねっと」発送等のための登録住所概数（ラベル打出用）

帰国及び在日卒業留学生	1,000件
県内小中高、企業、機関等	700件

情報発信、交流促進のためのメールアドレス概数（携帯等重複）

帰国留学生	650件
在日留学生	200件
在学留学生（携帯等重複）	270件
その他	500件